

画：友安よーいち
第122話「せわしもんじゃ」



広報紙へのご意見・ご感想をお気軽にお寄せください



読んだ感想や、こんな情報が知りたい、この人を取材してほしいなどのご意見を、QRコードからお寄せください。

心の花びら

風船葛隣の垣根借りてます (小林合歓の会 海蔵由喜子)
コスモスと霧島に惹かれし足湯入る (小林合歓の会 内田トシ子)
五年ぶり涙笑いの秋彼岸 (小林合歓の会 淵上律子)
中小路枝垂れて淡き帰り花 (小林からくに会 中園直子)
何事もなかつたように秋は行き (東脇哲郎)
世相など知らぬが仏盆とんぼ (長友正臣)
うさぎならぬ人住む月に夢も消えなれどやさしき光変らじ (佐枝記子)
道端で3コ拾いし栗の実ポケット俵せ宝物ごと (武ナミ子)

SUKU SUKU

きこみなと きこはやと
迫湊くん、迫颯翔くん
令和3年8月28日生、令和5年8月18日生



寝ているとよく、いつのまにか同じポーズを同じ向きでしています笑。

保護者：迫みなみ

すくすく募集中!

【申・問】
企画政策課 TEL.23-0456



申し込みはコチラ!

うえのあこ
上野杏心ちゃん
令和6年5月4日生



たくさん笑顔をいつもありがとう。これからも、元気いっぱい大きくなってね!!

保護者：上野直樹、瑞季

<編集後記>

今月は秋のこどもまんか月間です。子どもも大人と同じ一人の人間。当たり前のことですが、実際に接する際に子どもを尊重できているのか省みる良い機会になりました。(榎田)

読みかせ特集を担当しました。さまざま取り組みや活動する皆さんを少しでも多く紹介しようとした結果、いままでにないページ数の特集になりました。長いですが、ぜひ読んでいただけたらと思います。(前原)



小林の「よかところ」をハッシンしよう!
投稿写真から数点を広報紙で紹介!

Instagram & 広報こばやし
#ハッシンコバヤシ



▲詳細はコチラ

「ハッシンしたい小林の魅力」を写した写真に「#ハッシンコバヤシ」のハッシュタグを付けて、Instagramに投稿しませんか。市内で撮影したものであれば、景色、日常風景なんでもOK。

@niidome2110 さん



#生駒高原コスモス祭り #花火大会

@ipa_log さん



#出の山荘 #小林を食べつくす

@agarikaji さん



#野尻エイサー隊東風 #のじり湖祭

人のうごき (小林市の人口)

人口	41,103人	(-30, -854)
男	19,147人	(-17, -413)
女	21,956人	(-13, -441)
	19,101世帯	(+10, -42)

令和6年10月1日現在現住人口 (前月比、前年同月比)

現住人口：国勢調査人口 (実際に居住している人口) をもとに、その後の転入・転出、出生・死亡などを増減して算出する人口。

火災・救急発生状況

種別	9月	累計	昨年
建物	0	8	±0
林野	0	1	-1
車両	0	1	+1
その他	0	13	+5
救急	191	1,746	-17

交通事故発生状況

種別	9月	累計	昨年
人身	11	86	-12
物損	84	709	+29
死者	0	2	+1
負傷者	12	102	-19
全国死者		1,876	(昨年同月比 +4)

宮原市長のコラム

信念を貫く

実りの秋を楽しもう

Check!
 Volume.31

秋も深まり、11月は五穀豊稔を祝う祭りの季節ですね。小林市は農畜産業が基幹産業なこともあり、特に秋においては、皆さんご存じのとおりです。私は、出張で県外や都心に出ることがありますが、その際に思うことは、小林市の米や水、食材が本場においておいしいということ。特にこの季節は、新米が最高です。しかし、最近では、米不足とこれに伴う米の価格高騰が全国的な問題となっています。市内には田んぼが広くありますが、担い手の減少などで荒廃が進んでおり、あぜなどまで草が生い茂る状況もよく見られます。田んぼは、米ができるだけでなく、雨水を貯めることで洪水を抑制する機能も果たしています。地域の農畜産業、食を守るためには、地域に住む私たちが、そのおいしさや魅力に気づき、積極的に地産地消を進めていくことが大切だと思います。食欲の秋です。皆さん、小林市のおいしい魅力を堪能してください。

畜産においても牛肉の消費が伸びておらず、さらに飼料や生産コストが上昇していることから、非常に厳しい状況が続いています。地域の農畜産業、食を守るためには、地域に住む私たちが、そのおいしさや魅力に気づき、積極的に地産地消を進めていくことが大切だと思います。食欲の秋です。皆さん、小林市のおいしい魅力を堪能してください。

もありません。田んぼがある方は、ぜひ管理をし、おいしいお米を作ってみてください。私も作っています。国は食糧の自給率を上げるために積極的に取り組みを進めていますが、いまだにその多くを外国に頼る状況にあります。

